

2 集団生活における感染症対策

保育所等は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場であるため、感染症の集団発症や流行をできるだけ防がなければならない。

感染力のある期間を考慮し集団生活可能な状態であるか、かかりつけ医の判断の上、登所（園）する時に意見書（Ⅱ-2 資料1）の提出が必要である。

（1）意見書が必要な感染症

疾患名	潜伏期間	主な症状	感染しやすい期間	登所（園）のめやす	予防接種
麻疹 （はしか）	8～12日	発熱・咳・鼻汁・結膜充血・目やに・発しん・コプリック斑	発熱出現1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱した後3日を経過するまで	有
風しん （三日はしか）	16～18日	発熱・発しん・リンパ節腫脹・悪寒・倦怠感・充血	発しん出現前7日から7日後くらい	すべての発しんが痂皮化（かさぶた化）するまで	
水痘 （水ぼうそう）	14～16日	発しんが顔や頭部から全身赤いぶつぶつ→水ぶくれ→かさぶたになる。	発しんが出現する1～2日前から、すべての発しんが痂皮化するまで	すべての発しんが痂皮化（かさぶた化）するまで	
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	16～18日	発熱・唾液腺の腫脹・痛み。片側が腫脹し、数日後反対側が腫脹することが多い。	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで	
結核	3か月から数十年。感染後2年以内、特に6か月以内に発症することが多い。	慢性的な発熱（微熱）、咳、疲れやすさ。食欲不振。顔色の悪さ。	喀痰の塗抹検査が陽性の間	医師により感染のおそれが無くなったと認められるまで	
百日咳	7～10日	コンコンと咳き込んだ後、ヒューと笛を吹くような音を立てて息を吸うものが吸うのが特徴で、連続性・発作性の咳が長期に続く。	抗菌薬を使用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで	
腸管出血性大腸菌感染症 （O157、O26、O111等）	ほとんどの大腸菌が主に10時間から6日。O157は主に3～4日	無症状の場合もあるが、多くの場合には、主な症状として、水様下痢便や腹痛、血便がみられる。	便中に菌が排出されている間	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間あけて連続2回の検便によっていずれも菌陰性が確認されたもの	
咽頭結膜熱 （プール熱）	2～14日	高熱、扁桃腺炎、結膜炎	発熱、眼の充血症状が出現した数日間 （口から2週間、便から数週間排泄される）	主な症状（発熱、咽頭発赤、眼の充血）が消失してから2日を経過するまで	
流行性角結膜炎 （はやり目）	2～14日	流涙・目の充血・目やに。片方の目で発症した後、もう片方の目に感染することがある。	眼の充血、目やになど症状が出現した数日間	医師により感染のおそれが無くなったと認められるまで（結膜炎の症状が消失してから）	
急性出血性結膜炎	1～3日	強い目の痛み、目の白眼の部分の充血、結膜下出血、目やに、角膜の混濁	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間から数か月排出される	医師により感染のおそれが無くなったと認められるまで（結膜炎の症状が消失してから）	
髄膜菌性髄膜炎	主に4日以内	発熱・頭痛・嘔吐	有効な治療を開始して24時間経過するまでは感染源となる	医師により感染のおそれが無くなったと認められるまで	有

(2) 病後の登所、登園時に「治ゆ報告書」の提出が必要な感染症

疾患名	潜伏期間	主な症状	感染期間	登園のめやす	予防接種
インフルエンザ	1～4日	突然の高熱・全身倦怠感・関節痛・筋肉痛・咽頭痛・鼻汁・咳など	症状がある期間（発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過していること（乳幼児の場合）	有
新型コロナウイルス感染症	約5日間 最長14日間	無症状のまま経過することもある。発熱・呼吸器症状・頭痛・倦怠感・消化器症状・鼻汁・味覚障害・嗅覚障害など	発症の2日前から、発症後7～10日間程度	発症した後5日間を経過し経過し、かつ、症状軽快した後1日を経過していること	有

子どもがインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症と診断された場合、保護者に次のことを依頼する。

- ① 電話または保護者アプリなどで保育所等に連絡し、症状や発症日、登所（園）再開のめやす等を伝える。
- ② 「治ゆ報告書」は保護者が記載し、登所（園）を再開する際に保育所等に提出する。

※「治ゆ報告書」は、富山市のホームページ「育さぽとやま」からダウンロードすることができる。

(3) 保育所等で多い感染症（意見書不要）

意見書の要否に関わらず感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、一人ひとりの子どもが一日快適に生活できるよう、下記の感染症についても、感染症拡大防止策が必要である。

疾患名	潜伏期間	主な症状	感染しやすい期間	登所（園）のめやす
溶連菌感染症	2～5日	扁桃炎、伝染性膿痂疹（とびひ）、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髄炎、髄膜炎等。 扁桃炎の症状（発熱、のどの痛み・腫れ、化膿、リンパ節炎、いちご舌）	適切な抗菌薬を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24時間から48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	2～3週間	咳、発熱、頭痛などの風邪症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる。	適切な抗菌薬を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	3～6日	水疱性の発しんが口腔粘膜及び四肢末端に現れる。発熱、のどの痛み、水疱（水ぶくれ）	手足や口の中に水疱、潰瘍が発 症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅班（リンゴ病）	4～14日	発熱、倦怠感、頭痛、筋肉痛等、頬が赤くなったり手足に網目状の紅斑が出現する。	発疹出現前の1週間	全身状態が良いこと
感染性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	ロタウイルスは1～3日 ノロウイルスは12～48時間後	嘔吐・下痢・脱水	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	3～6日	高熱（数日続く）、のどの痛み、咽頭に赤い粘膜しん→水疱疹や潰瘍形成	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス	4～6日	発熱・鼻汁・咳・喘鳴・呼吸困難	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	不定	小水疱が神経の支配領域にそった形で左右どちらかに現れる。	水疱を形成している間	すべての発疹が痂皮化（かさぶた化）してから
突発性発疹	9～10日	高熱が、3～4日間続いた後、解熱とともに体幹部を中心に鮮紅色の発しんが出現する。	—	解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと
伝染性膿痂疹（とびひ）	2～10日	水ぶくれ、びらん、かさぶたが全身にみられる。ひっかくと新しく水ぶくれができる。	効果的治療開始後、24時間まで	とびひの跡が乾燥しているか。乾燥していない場合は、覆える程度のものであること
あたまじらみ	10～30日 卵は約7日で孵化する	小児では多くが無症状であるが、吸血部分にかゆみを訴えることがある。	産卵から最初の若虫が孵化するまでの期間は10日から14日	駆除を開始していること
疥癬	約1か月	かゆみの強い発疹、水ぶくれ、しこり等		治療を開始していること。手をつなぐなどの遊戯、行事は避けること
伝染性軟属腫（水イボ）	2～7週間	直径1～5mmの白～淡紅色のぶつぶつで、表面はつやがあって一見水ぶくれに見える。	不明	掻きこわし傷から滲出液が出ている時は、被覆すること